


## 国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

## 【実践者】

授業者氏名	宮浦 匡典	学校名	石狩市立南線小学校（北海道）
教科（科目）・領域	道徳	対象学年（人数）	2年3組（30名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2019年12月18日（水）5時間目 13:10～13:55（1時間）		


## 【実施概要】

1. 主題名（活動名）：大切にしたい生きもののいのち -円山動物園にアジアゾウがやってきた！-					
2. 実践する教科・領域： 道徳 道徳価値項目：D-18 自然愛護 SDGs15:陸の豊かさを守ろう 	3. 学習領域				
		1	2	3	4
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
	B グローバル社会	相互依存	情報化		
	C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. ねらい（評価規準を意識して設定）： アジアゾウがおかれた環境を知り，生きものを大切に守り育てようとする心情を育てる。					
5. 評価規準	①知識及び技能	アジアゾウのおかれた環境について知る。			
	②思考力、判断力、表現力等	友達の意見を聞き，生き物の命について考え，自分の思いを表現する。			
	③学びに向かう力	自分の考えを確認したり，相手の考えを尊重したりしながら，意見交流をする。			
6. 主題設定の理由・単元の意義等	【主題設定の理由と意義】				
	<p>(1) 主題設定の理由</p> <p>昨年12月，ゾウの花子が亡くなって以来，みんなが待ち望んでいたアジアゾウが円山動物園にやってきた。1年生のときに「もうすぐゾウが来るんだ」と思い，見学した動物園には，今では立派なゾウ舎が建てられ，ミャンマーからきた4頭は元気に暮らしている。その一方で，アジアゾウは現在，すみかである森林の伐採や乱獲により数が減り，絶滅危惧種に指定されている。子どもたちには，ゾウのおかれた環境を知り，生き物を守り育てていくことの大切さに気付いてほしいと考えている。</p> <p>(2) SDGsとの関連と指導</p> <p>本授業は，SDGs（世界を変えるための17の目標）の15「陸の豊かさを守ろう」と関連付けている。学習指導要領前文（2017年3月公示）には，「持続可能な社会の創り手となることが期待される児童（生徒）に」と示されており，SDGsを達成するために，「持続可能な開発のための教育（ESD）」を充実させることの重要性が指摘されている。</p> <p>SDGsの指導にあたって特筆したいことは，発達段階における配慮である。語彙や生活経験</p>				

6. 主題設定の理由・単元の意義等	<p>の少ない子どもたちが、17のターゲットの意味や言葉から学習していくことは難しく、ロゴ学習が困難であることは想像に難くない。そこで、SDGsを掲げなくとも、指導者がその理解を助ける“活動”や“しかけ”を授業に組み込んでいくことが重要である。今回は、社会見学で訪れた動物園、アジアゾウやゾウ使いのアウン君といった子どもたちに身近な事柄から、主題やSDGsに迫る授業展開を考えた。身近な題材から共感的に理解していくことは、言葉の理解を越えた“深い学び”につながっていくものとする。これは小学校にとどまらず、中学校や高校等での学習においても重要な視点となり得るのではないだろうか。</p>
	<p>(3) 国際理解教育としての意義と汎用性</p>
	<p>本授業を国際理解教育の視点でみると、アジアゾウやミャンマーでゾウ使いをするアウン君を通して、「ミャンマーという国について知る。」「ミャンマーと日本とのつながりに気付く」というところに意義がある。小学校低学年の子どもたちにとって、本授業が国際理解教育の入り口となればと考えている。</p>
	<p>また、汎用性を考えると「いつでも・どこでも・だれでも」できる授業が理想である。今回は1時間扱いの道徳の授業（生命尊重）であり、教育課程上も無理なく実践できるよう作成した。さらに、全国各地に動物園があり、多くの動物が外国からやってきていることを考えると、今回扱ったアジアゾウでなくても、その地域に合わせた動物を通して学ぶという授業展開も可能である。</p>
	<p>(4) 児童／生徒観</p>
<p>動植物に対して興味関心をもっている子が多い。1年生ではあさがお、2年生ではミニトマトを育てる学習で行った。また、教室では現在ザリガニを飼育している。名前を付けてお世話をするすることで、成長の様子を楽しみながら観察する姿が見られる。</p>	
<p>学習においては、国語や算数などの基礎的な学習でつまづく子が多い学級である。基礎基本の定着を目指して、丁寧に授業を行うことを心掛けている。本授業においても“すみか”“狩り”などの難しいと思われる言葉については、意味を確認しながら授業を行う。そうすることで、自信をもって自分の考えを決め、意見を伝えることができるのではないかと考える。</p>	
<p>(5) 教材観／指導観</p>	
<p>自己中心性を特徴とする低学年段階において、実際に見たり触れたりするといった五感を使った学習は、その判断や理解を深めるために大変重要である。「共感的理解→問題認識→自己の考えや判断」という学習過程を通して、命を大切に、生きものを守り育てていく自然愛護という価値に気付かせたい。</p>	

7. 本時の展開

本時のねらい：ゾウがおかれた環境を知り、生きものを大切に守り育てようとする心情を育てる。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
<p>導入 (5分)</p>	<p>「どんな生き物を飼ったことがありますか。」                      「円山動物園にはどんな生き物がいましたか。」                      ・キリンを見ました。                      ・ホッキョクグマがいました。                      「みんなが見学したあとにやってきた動物は何でしょう。」</p>	<p>飼育体験を振り返り、自分と動物との関わりを知る。                       去年行った円山動物園を思い出させる。</p>	<p>SDGs15「陸の豊かさを守ろう」ロゴ  <b>資料①円山動物園</b>  </p>
<p>展開1 (13分)</p>	<p>「加藤園長がゾウについて教えてくださいました。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>待ちに待ったゾウがミャンマーからやってきてくれました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px;"> <p>名前は…                          パール（女の子）                          シュティン（女の子）                          ニヤイン（女の子）                          シーシュ（男の子）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 100px; margin-top: 10px;"> <p>クイズ                          ①ゾウの足の大きさは？                          ②一日に出るうんちの量は？ etc.</p> </div>	<p>園長さんに説明してもらい形で紹介する。                       展開1では共感的に理解できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>資料③クイズ写真</p> </div>	<p><b>資料②4頭のゾウ</b>                      ミャンマーからやってきたゾウ                        パール(5才) シュティン(27才) ニヤイン(6才) シーシュ(10才)</p>
<p>展開2 (20分)</p>	<p>「ミャンマーでゾウ使いをするアウン君を紹介します。アウン君には悩みがあります。」                      アウン君：ゾウの数がどんどん減っているんだ                      「どうしてゾウが減っているのだろう。」                      ・狩りで数が減ってきている。                      ・ゾウのすみかの森が減ってきている。</p> <p><b>動物園でゾウを飼うことについて</b></p> <p>ともきくん「せっかくゾウがきてくれたのなら、大切に育てたらいいよ。」                      まみさん「数が減っているから、ゾウがのびのびと暮らせるミャンマーに返してあげたらいいよ。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>「ともきくんとまみさんのどちらの考えがよいですか。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなが待っていたゾウだから大切に育てたいです。</li> <li>・日本の動物園だとかわいそうだからミャンマーに返したらいいいと思います。</li> <li>・どちらも大切なことだと思うので…決められないな。</li> </ul>	<p>クイズ1 これは何でしょう？    <small>Q. お母さんゾウ(シュティン)の足の大きさをどれくらいでしよう。</small></p> <p>クイズ2 これは何でしょう？    <small>Q. 子どものゾウ(ニヤイン)の1日にでるうんちの量は何くらいでしよう？</small></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto;"> <p>資料④アウン君の悩み</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-top: 10px;"> <p>自分の考えを明確にする。</p> </div>	<p><b>*Google earth</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-top: 10px;"> <p>資料⑤ともき君とまみさんの考え</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: auto; margin-top: 10px;"> <p>動物園でゾウを飼うことについてどちらの考えがよいと思いますか。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>せっかくゾウが来たのだから動物園で大切に育てたいよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>数がへっているのだから、ゾウがのびのびと暮らせるミャンマーにかえしてあげたいよ。</p> </div> </div> </div>
<p>終末 (7分)</p>	<p>振り返りシートを書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからもっと生きものを大切に育てたい。</li> <li>・命は大切だと思うので…</li> <li>・はじめは〇〇と思ったけど、友達の話聞いて…</li> </ul>		

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）</p> <p>アジアゾウのおかれた環境を知り、それに対する自分の考えをもち、表現することができたか。</p> <p style="text-align: right;">（発表・ワークシート記述）</p>
<p>9. 学習方法および外部との連携</p> <p>アジアゾウをどのように守り育てていくかについて、自分の立場をはっきりさせ、その上で友達の考えを聞いていくことで、一人ひとりがこの問題を深く考えていく姿を目指す。そのために、「どちらの考えが良いですか」という問いを投げかけ、意見を交わしていくモラルジレンマの展開で授業を進めていく。</p>
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>本授業は、12月の校内研修で公開する予定である。「道徳」（自然愛護：1時間扱い）で身近な題材を取り上げて授業を行うことで、国際理解教育は「いつでも・どこでも・だれでも」できるものとして提案できればと考えている。また、本校に赴任して以来、JICAの研修員学校訪問が続いており、5・6年生の外国語の教育課程上にも位置付けていることから、本校における広がりも感じている。</p>

## 【自己評価】


<p>11. 苦勞した点</p>	<p>主発問「こうたくんとまみさんのどちらの考えがよいですか」を投げかけた時に、子どもたちが自分の意見をもてるようにすること、そしてその理由を言えるようにすることに苦慮した。そこで、展開1で子供と対話をしながら、丁寧に授業を進めることを心掛けた。さらに、クイズ形式で紹介したり、言葉の確認（“すみか” “狩り” って何？等）したりすることに時間をかけた。ここを丁寧にやったことで子供たちの理解を深め、後半の話し合いの盛り上がりにつながったと考える。反面、時間が足りず、後半の話し合いにもう少し時間をかけたかったという反省が残った。</p>
<p>12. 改善点</p>	<p>〈参観者の意見から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・展開1の時間が長めであった。クイズは具体的に課題解決に向かうことには関わらないのでスリムにした方がよい。三択形式にするなど工夫するとよい。</li> <li>・クイズはゾウの命に関わるようなものの方がつながりがあるのではないか。</li> <li>・「ミャンマーに返したらゾウが殺される」という意見が気になった。展開上、子供たちには、殺されるというイメージが強かったのではないか。</li> <li>・話し合いを進める上で、ゾウの様子が分かる情報が少ないのではないか。</li> <li>・架空のともきさんやまみさんを登場させるのではなく、アウン君の言葉に対してどのように応えるかという組み立てにした方が国際理解教育らしくなるのではないか。</li> <li>・主発問は「どちらの意見に賛成ですか」の方がよいのではないか。正解ではなく、あくまでも個人の考えを問うているので。</li> <li>・「ゾウの数がどんどん減っているのだ」の次に、ゾウの減少傾向がわかる絵やグラフ等を提示すれば、もっとインパクトがあったかもしれない。</li> <li>・動物園でゾウを見ることができたわけではないので、その辺りは先生が意図するような映像を提示しながら、考えさせるとよいのではないか。</li> <li>・ミャンマーという国については、既習事項だったのでろうか。何気なく語られていたが、そのあたりがよくわからなかった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終末は決意表明にならない方がよい。「これからの自分」ではなく、「気付いたこと」とした方がよい。</li> </ul>												
13. 成果が出た点	<p>〈参観者の意見から〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の社会見学で行った円山動物園を題材としていたことから、どの子も授業に参加でき、興味関心をひく内容であった。</li> <li>・難しい内容であったが、低学年にもわかる教材、発問が工夫されていた。</li> <li>・google earth は臨場感があり子供たちにとって効果のある働きかけだと思った。</li> <li>・先生の話を書く、写真を見る、発言する、振り返りを書く等が中心であったが、いずれもほぼ全員が興味をもって真剣に取り組んでいた。</li> <li>・先生と子供たちとのやり取りが非常に丁寧になされていて好感がもてた。</li> <li>・低学年は自己中心性が強いので動物園にいた方がいいという意見が多いと推察していた。しかし、多くの子がゾウの立場から意見を述べていたのに正直びっくりした。</li> <li>・自分の国でゾウが死ぬのであれば…などの理由から、どう考えて（結論づけて）よいか分からないと述べるなど、本当に多様な意見が出ていた。</li> <li>・授業構想、発問がよいことで、子供たちの思考が発火しているアクティブラーニングの状態にあったと言えるであろう。</li> <li>・意見交流といった対話を通して、自分の考えの確認、相手の考えの尊重、自分の考えの修正、発展等、子供たちの中に授業を通した深い学びができていた。</li> <li>・価値理解だけでなく、人間理解に向かう授業は大切だと思う。2年生の後半からは今回のような価値にふれる授業を行ってもよいであろう。</li> <li>・葛藤を生む（モラルジレンマ）授業のモデルとして、今回はよい授業であった。</li> <li>・授業中の約束、学級づくりが徹底されていることが根底にあるのだと感じた。</li> </ul>												
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<table border="1" data-bbox="849 1361 1455 1527"> <thead> <tr> <th></th> <th>動物園で</th> <th>どちらも</th> <th>ミャンマーで</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はじめ</td> <td>22</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>おわり</td> <td>21</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> <p>(n=30) 主発問に対する自分の考え</p> <p>(1) 意見の変容が見られた子の発言や記述</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どちらの意見もととても大切なことでみんなの言っていることがわかりました。</li> <li>・〇〇さんの意見を聞いて、どちらも大事でどう考えてよいかわからなくなったので、どちらにもにしました。</li> </ul> <p>(2) 授業の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物が楽しく暮らせる方がいいと思いました。</li> <li>・動物が暮らしやすいところで暮らせるようになったらいいなと思いました。</li> <li>・ゾウがどっちが過ごしやすいかわからないけど、動物園かミャンマーどちらかで暮らせたらいいなと思いました。</li> <li>・私たちはゾウが日本に来てよかったと思っているけど、ゾウは自分が生まれた国</li> </ul>		動物園で	どちらも	ミャンマーで	はじめ	22	4	4	おわり	21	6	3
	動物園で	どちらも	ミャンマーで										
はじめ	22	4	4										
おわり	21	6	3										

	<p>の方が暮らしやすいのかなと思いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物や生き物は大切にされた方がいいと思いました。</li> <li>・生き物が大変そうだったら自分も助けます。</li> <li>・自分の家ではいろいろな動物を飼っているけど、面倒をあまり見ていないから、これからは大切にしたいです。</li> <li>・次に動物を飼うときは大切に育てます。</li> <li>・生き物を飼うなら大切にしておかわいがってあげます。</li> <li>・命を大切にします。アウン君は動物の心が分かっている人だと思います。</li> <li>・動物を育てるのは、やっぱり難しいことが分かりました。飼うのは難しいけど、いいと思います。</li> <li>・動物の暮らしについて調べたいです。</li> <li>・ゾウのことをいろいろ知りたいです。円山動物園に行って、ゾウたちに会いたいです。</li> <li>・ミャンマーに返したらよくないのではと思いました。</li> <li>・アウン君がゾウが減って寂しがっているの、ぼくも動物を飼っているの、減らないでという気持ちがわかります。</li> <li>・ゾウが減っていることがわかりました。</li> <li>・またこういう授業があったら、ちゃんとよく考えなきゃだめだと思いました。</li> </ul>
16. 授業者による自由記述	<p>本授業では、2年生なりによく考え、自分の言葉で考えを伝えていた。中学年、高学年でもこの教材を行うことができると考える。学年が上がるにつれて、知識が増え、判断の根拠が明確になり、議論がさらに深まるのではないだろうか。</p>

参考資料：

1 ワークシート



**大切にしたい生きもののいのち**

～円山どうぶつ園にミャンマーからゾウがやってきた～

2年 組 番 名前 \_\_\_\_\_

**1. アジアゾウの話を読んで、わかったことを書きましょう。**

**2. ともきくとまみさんのどちらの考えがよいと思いますか。**

【はじめ】

↑	↑	↑
どうぶつ園で そだてたらよい (ともきくんの考え)	どちらも	ミャンマーにかえて あげたらよい (まみさんの考え)

【おわり】

↑	↑	↑
どうぶつ園で そだてたらよい (ともきくんの考え)	どちらも	ミャンマーにかえて あげたらよい (まみさんの考え)

**3. これからの自分**  
(今日のべん強をしてこれからはがんばりたいことや、思ったことを書きましょう。)

